

問1 弥生時代に始まった、青銅器と鉄器の使い分けに関する背景について、正しい説明はどれですか。（2026年 北海道公立入試 類似）

1. 青銅は鉄よりも耐久性に優れていたため、大規模な土木工事の道具としてのみ使われた
2. 石器から鉄器への移行を嫌った指導者たちが、妥協案として青銅器を儀式に導入した
3. 鉄器が実用的な武器や工具に用いられる一方で、青銅器は主に集団をまとめるための祭礼や権威の象徴に特化していった
4. 青銅器は弥生時代の中頃に全て回収され、その原料はすべて鉄器の製造に再利用された

問2 弥生時代の遺跡の復元資料において、茅（かや）などの植物で葺かれた屋根が地面に接するほど低く設置され、地面を掘り下げて基礎としている住居が見られます。この住居と、同じ時代に稲などを保管するために作られた「高床倉庫」の構造上の最大の違いは何ですか。（2018年 奈良公立入試 類似）

1. 住居は地面を掘り下げて床を作っているが、倉庫は柱によって床を高い位置に設けている
2. 住居は瓦で屋根を葺いているが、倉庫は茅や草を用いて屋根を葺いている
3. 住居は木材を一切使わずに石だけで作られているが、倉庫は木材を中心に作られている
4. 住居は円形のものしかないが、倉庫はすべて三角形の形をしている

問3 弥生時代に作られた高床倉庫において、建物の床を高く設計した主な理由として最も適切な説明を選びなさい。（2022年 三重公立入試 類似）

1. 収穫した稲を湿気から守り、ネズミなどの小動物による被害を防ぐため
2. 床下を住居スペースとして活用し、土地を効率的に利用するため
3. 洪水が発生した際に、集落の人々が避難する場所を確保するため
4. 高い位置から周囲を監視し、敵の侵入をいち早く察知するため

問4 兵庫県神戸市の桜ヶ丘町などで出土した、釣り鐘のような独特の形をした弥生時代の青銅器について述べた文として、最も適切なものはどれですか。なお、この青銅器の表面には、当時の生活の様子や幾何学的な文様が描かれていることがあります。（2021年 大阪公立入試 類似）

1. 縄文時代の集落で見つかる、魔除けのために作られた土偶である
2. 魏の皇帝から邪馬台国の女王に贈られたとされる銅鏡である
3. 狩猟や農耕の様子が描かれた、祭祀に用いられた銅鐸である
4. 古墳の副葬品として納められた、馬に装着する鉄製の装具である

問5 「魏志倭人伝」に記されている、3世紀頃の日本（倭）の社会や政治の様子に関する説明として、当時の状況を正しく述べているものを選びなさい。（2025年 長野公立入試 類似）

1. 大人（たいじん）と下戸（げこ）という身分の差があり、租税を納める仕組みがあった
2. 仏教が伝来した直後であり、各地で巨大な寺院の建設が始まっていた
3. 律令制度が導入され、戸籍に基づいて全ての人々に口分田が割り当てられていた
4. 武士団が結成され、各地の荘園を管理するために地頭が派遣されていた

問6 弥生時代に大陸から稲作が伝来して定住生活が広まると、集落（ムラ）の間で大規模な争いが発生するようになりました。縄文時代の狩猟・採集中心の生活ではあまり見られなかったこのような対立が、弥生時代に激化した主な理由として適切なものはどれですか。（2024年 北海道公立入試 類似）

1. 水田を耕作するための土地や、農業に欠かせない水の利権を確保しようとしたため
2. 獲物を追って移動する範囲を広げる中で、獲物の所有権をめぐる対立したため
3. 気候の寒冷化によって木の実などの食料が激減し、採集場所を奪い合ったため
4. 大陸から伝来した仏教の布教をめくり、信仰の違いから衝突が起きたため

問7 弥生時代、土を耕すための農具や敵と戦うための武器には、青銅ではなく主に「鉄」が材料として選ばれました。このように鉄器が実用品として普及した理由として、最も適切な説明はどれですか。（2018年 大阪公立入試 類似）

1. 鉄は青銅に比べて硬度が高く耐久性に優れていたため、衝撃の加わる作業や戦闘に適していたから。
2. 鉄は青銅よりも融点が低く、当時の未熟な技術でも簡単に大量生産することができたから。
3. 鉄は日本列島で独自に発見された金属であり、大陸から輸入する必要があった青銅よりも安価だったから。
4. 青銅は非常に重く持ち運びが困難だったため、軽量の鉄が実用的な道具として好まれたから。

問8 紀元前後に位置する東アジアの歴史を記した年表において、1世紀半ばに日本の「倭」の中にあった「奴国」の王が、ある中国の王朝に使節を送り、その証として金印を授けられたという記述があります。この時、奴国の王が使節を送り、金印を授かった王朝の名称として正しいものを選択してください。（2025年 愛媛公立入試 類似）

1. 漢（後漢）
2. 秦
3. 魏
4. 隋

答え合わせ・解説

問1	答え 3 鉄器が実用的な武器や工具に用いられる一方で、青銅器は主に集団をまとめるための祭礼や権威の象徴に特化していった	弥生時代の日本において、金属器は「実用の鉄」と「祭祀の青銅」という二面的な使い分けがなされていました。稲作の普及に伴って集団が大きくなると、人々をまとめ上げるための儀式や、その集団の頂点に立つ指導者の権威が必要となりました。そのため、美しく加工しやすい青銅器は、実用性よりも、見る人を圧倒するような象徴的な価値を求められるようになったのが大きな背景です。
問2	答え 1 住居は地面を掘り下げて床を作っているが、倉庫は柱によって床を高い位置に設けている	たて穴住居は地面を掘り下げて床を作ることで住空間を確保していましたが、収穫した稲を保管する高床倉庫は、湿気やネズミなどの害を防ぐために床を地面から高く離れた構造をとっていました。同じ集落内であっても、目的によって構造が明確に使い分けられていたことがわかります。
問3	答え 1 収穫した稲を湿気から守り、ネズミなどの小動物による被害を防ぐため	弥生時代には本格的な稲作が始まり、収穫した米を長期間保存する必要が生じました。地面から床を離すことで風通しを良くして湿気を防ぐとともに、柱に「ねずみ返し」と呼ばれる板を取り付けることで、食料を食い荒らすネズミの侵入を防ぐ工夫がなされていました。
問4	答え 3 狩猟や農耕の様子が描かれた、祭祀に用いられた銅鐸である	釣り鐘状の青銅器は銅鐸と呼ばれ、弥生時代の文化を象徴する遺物です。銅鐸の表面には、当時の人々が狩りをする姿や、高床倉庫、稲作の様子が浮き彫りで描かれているものがあり、文字のない時代の生活を知るための重要な手がかりとなっています。縄文時代の土偶や、古墳時代の鉄製武器とは時代や特徴が異なります。
問5	答え 1 大人（たいじん）と下戸（げこ）という身分の差があり、租税を納める仕組みがあった	『魏志倭人伝』の記述からは、当時の倭には「大人」や「下戸」と呼ばれる明確な身分階級が存在し、租税（税金）の徴収や市場での取引が行われていたことがわかります。これは、単なる集落の集まりではなく、ある程度組織化された国家としての仕組みが整い始めていたことを示しています。
問6	答え 1 水田を耕作するための土地や、農業に欠かせない水の利権を確保しようとしたため	稲作が始まると、安定して米を生産するために、日当たりの良い土地や灌漑に必要な水の確保が死活問題となりました。これらをめぐって集落間で利害が対立したことが、組織的な武力衝突へと発展しました。また、収穫した米を蓄積できるようになったことで、貧富の差や権力の差が生じたことも争いの一因です。
問7	答え 1 鉄は青銅に比べて硬度が高く耐久性に優れていたため、衝撃の加わる作業や戦闘に適していたから。	鉄は青銅に比べて非常に硬く、刃先を鋭く研ぐことができるため、木を伐採したり土を掘り起こしたりする農具、あるいは高い殺傷能力が求められる武器に最適でした。対して青銅は、鉄に比べると柔らかく脆いため、激しい衝撃が加わる実用的な道具には不向きであり、主に祭祀用の道具（祭具）としてその価値を見出されました。
問8	答え 1 漢（後漢）	1世紀半ばにあたる57年に、倭の奴国の王が中国の王朝である「漢（後漢）」に使節を送り、光武帝から金印を授けられたことが、中国の歴史書である『後漢書』東夷伝に記されています。この金印は、江戸時代に現在の福岡県にある志賀島（しかのしま）で見えられ、「漢委奴国王」という文字が刻まれていました。